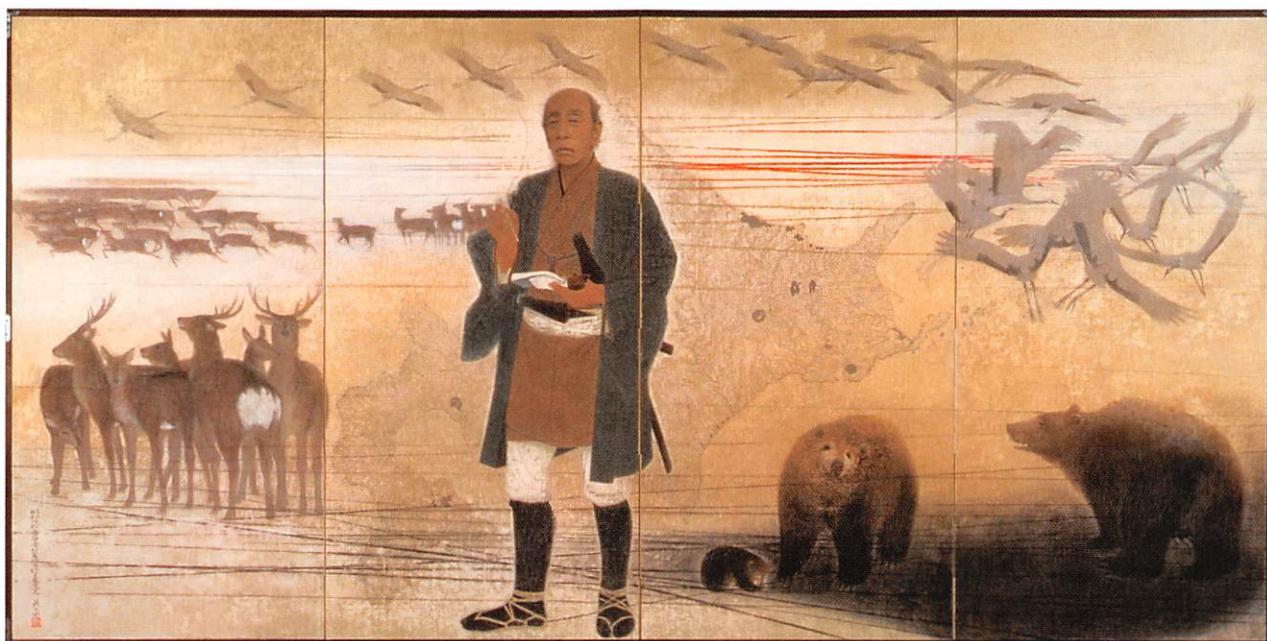




一般社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北3条西18丁目2-7 新田ビル TEL・FAX 011-644-4025
<http://www.artepia.or.jp>



岩橋英遠《憂北の人》

1970-79(昭和45-54)年 紙本彩色・屏風(四曲一隻)(北海道立近代美術館蔵)

釧路駅の近くに松浦町という町名があります。何かの時に松浦武四郎という人物にちなんで名づけられたと聞きました。小学生の時の話です(当方、釧路出身なもので)。そのころは、地名にもなってしまう「松浦さん」は、石川啄木のような歌人かと思いついていたのですが、知れば知るほど北海道の歴史において重要な人物でした。

松浦武四郎(1818~1888/今年は生誕200年)。三重県の生まれ、旅に生きた人。幕末期に北海道(千島、樺太を含む)の津々浦々をめぐること6回。しかもその都度、地形から風土まで徹底した調査記録をとりためて、当代随一の「蝦夷地通」と知られるまでに。ついには明治新政府の北方政策に関わり、北海道地図の原図を作成。「北加伊道」などの国名を提案したのも武四郎でした。松浦案をふまえて新

政府は、1869(明治2)年、蝦夷地を「北海道」と命名。それから今年で150年になります。

その松浦武四郎をモデルにしたのが、日本画の巨匠、岩橋英遠による《憂北の人》です。北海道地図を背景に、野帳(フィールド・ノート)と筆を持つ旅装束の武四郎を立たせ、まわりにタンチョウの群れ、野を駆けるエゾシカ、のっそりと姿を現したヒグマを加え、雄大な北海道のイメージをひとつにまとめています。英遠には、もう1点、武四郎をモデルに描いた《阿寒湖畔の松浦武四郎》(1970年、道からの依頼制作、赤れんが庁舎に常設)があります。どちらも英遠が歴史人物画に挑んだ優品です。

(北海道立近代美術館 普及情報課長 五十嵐聡美)

mima

明日へのアーティストたちとともに

～ 夢魔とポエジイ～

2月24日(土) ▶ 4月11日(水)

北海道立三岸好太郎美術館 副館長

中村 聖司

北海道立三岸好太郎美術館の設立は、1967(昭和42)年にさかのぼります。この年、三岸好太郎の作品220点を、夫人で画家の三岸節子をはじめとする遺族が北海道に寄贈したことを大きなきっかけにして、北海道立美術館(札幌市北1西5。旧・北海道庁立図書館、現・北粟楼札幌本館の建物)が開館しました。1977年、同館の名称が「北海道立三岸好太郎美術館」に変わり、1983年に北2西15に新築となった建物に移転して、今日に至ります。

この間、全国に先駆けた公立の個人美術館として、札幌に生まれ日本の近代美術に大きな足跡を残した三岸好太郎(1903/明治36～1934/昭和9)の作品を収集、保存、研究、展示するとともに、絵画に囲まれたなかでのコンサート、子ども向けプログラムなどの多彩な活動で親しまれてきました。

2017(平成29)年、北海道立美術館から数えて50周年を機に、当館では三岸好太郎の進取の精神に学びながら、これまで以上に親しまれる美術館を目指すとともに活動の幅を広げていくために、大きく三つの取り組みを行うことになりました。

ひとつめは当館の愛称を全国公募し、「ミマ」と決定。名称の英語表記 Migiishi Kotaro Museum of Art の



外壁と舗石の修理 (2017年3月)

頭文字を組み合わせた「mima」を最優秀賞作品に選び、この言葉に Message of Impression by Meeting Art(アートとの出会いによる、感動のメッセージ)というフレーズを込めました。親しみやすさと、未来へ向けたメッセージの発信という、これから当館が目指す方向を表すものです。

二つめはリニューアル工事です。まず一昨年从去年にかけては、外壁タイルと舗石の修理、風除室と地下の照明のLED化、バリアフリー駐車場の設置等を実施。この間は通常通り開館しながらの工事でしたが、昨年10月2日からは休館に入り、2階北側の多目的会議室を展示室に改造(温湿度調整のための空調設備とハロンガスによる消火設備、並びに展示用壁面の設置等)、照明の



展示室南側の窓の工事 (2018年1月)



佐藤綾香《海辺のポーチ》 2017年

更新(従来の蛍光管と白熱球に代えて、LEDのスポットライトとダウンライトによる照明を設置)等を進めてきました。

そして三つめは、道内外の美術館と連携したさまざまな企画展や、北海道の若い芸術家たちの活動の紹介です。これらは道教委が進める新規事業「アートギャラリー北海道」の一環であり、すでに昨年春にはそのプレ企画として道立近代美術館とともに小樽芸術村のコレクションと当館コレクションによる展示を実施しました。

そして4ヶ月に渡った工事休館を終

えて、リニューアルオープンする2月24日(土)

から、若い作家たちの紹介企画第二段として行うのが、展覧会「mi ma・明日へのアーティストたちとともに〜夢魔とポエジイ〜」です。この展覧会では三岸好太郎の詩的イメージ、とりわけ最晩年の筆彩素描集『蝶と貝殻』等に集約されてあらわれた、モチーフの意表を突く組み合わせ、即物的で断片的な情景描写、

夢幻的なロマンチズム

等の特色と通じ合う表現を見せる20代から30代の制作者たちに焦点を当てます。出品は次の6名です。

佐藤綾香(さとう・あやか)

1988(昭和63)生。札幌在住。

絵画

佐藤菜摘(さとう・なつみ)

1992(平成4)生。札幌在住。

絵画

鈴木隆文(すずき・たかふみ)

1986(昭和61)生。札幌在住。

絵画

新田のんの(にった・のんの)

1996(平成8)生。札幌在住。

絵画

船岳絃行(ふなおか・ひろゆき)

1982(昭和57)生。岩見沢在住。絵画

山崎愛彦(やまざき・よしひこ)

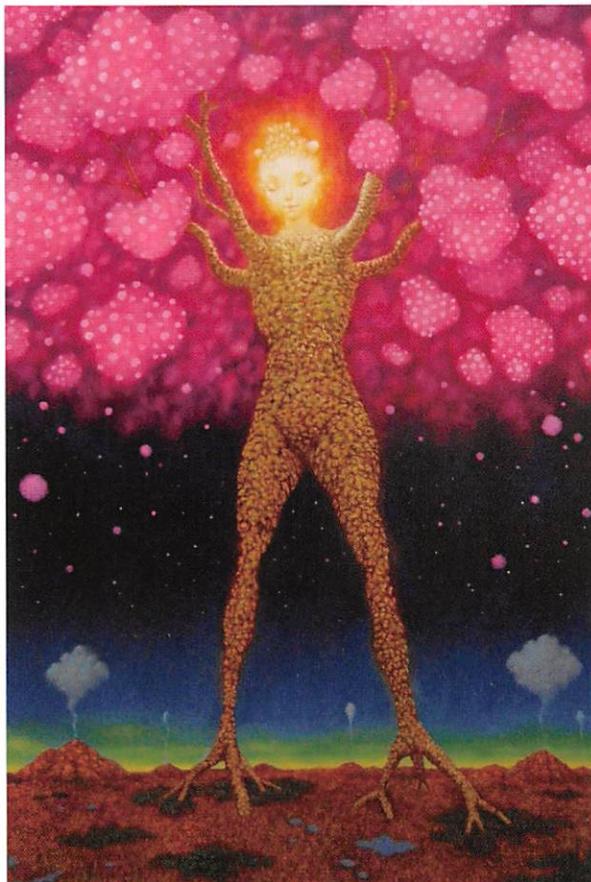
1994(平成6)生。札幌在住。絵画

そして三岸好太郎の作品も展示室に帰ってきます。大正から昭和の三岸好太郎作品と、80年以上の時を隔てた現代の絵画とが会おう、mi maの新しい空間。ぜひお越し下さい。

お越し下さい。



山崎愛彦《日のあるうちに》 2016年



船岳絃行《花をまく月》 2013年

近代美術館

ブリヂストン美術館展

石橋財団コレクションの精華
4月21日(土)～6月24日(日)

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎氏のコレクションを公開すべく、1952年に東京の京橋にオープンしました。以後も、コレクションの充実をはかり、印象派と20世紀絵画を中心とする西洋の近現代美術、および明治以降の日本の洋画を収蔵、現在は2019年秋に開館予定の新美術館建設のため休館中です。

本展では、建て替え休館を機に、同館が所蔵する名品を、道立近代美術館、三岸好太郎美術館の2館で紹介いたします。そのうち近代美術館では、コロ、ミレーらバルビゾン派、モネ、ルノ



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《ずわるジュールジェット・シャルバンティエ嬢》
1876年

ワールら印象派、セザンヌ、ゴッホら後期印象派、さらにはマティス、ピカソ、モディリアーニなど、19世紀から20世紀前半にかけての41人の巨匠による、西洋近代絵画の名品56点を展示。あわせて、藤島武二《天平の面影》、《黒扇》、青木繁《海の幸》、《わたつみのいるこの宮》という、重要文化財に指定された明治時代を代表する日本洋画4点を展示いたします。

mima北海道立三岸好太郎美術館

ブリヂストン美術館展

石橋財団コレクションの精華
4月21日(土)～6月24日(日)

近代美術館会場につき、mima三岸好太郎美術館では、明治から大正、昭和にかけての日本を代表する画家18名による24点の絵画を展覧します。

黒田清輝、岡田三郎助、梅原龍三郎、安井曾太郎、岡鹿之助といった名だたる巨匠たち。藤田嗣治、国吉康雄ら海外を中心に活躍した画家たち。そして、若き日の三岸好太郎に影響をもたらした岸田劉生や関根正二、三岸と同時期にシユルレ

アリスムをはじめとするフランスの前衛的な絵画表現を自らの作品にとり入れた古賀春江など、三岸の美的精神につながる日本近代美術の精華をご紹介します。

選りすぐりの名品の数々をごゆっくりお楽しみください。



古賀春江《鳥籠》1929年

旭川美術館

魯山人の宇宙 魂を刻る美が欲しい

4月26日(木)～7月1日(日)

京都市上賀茂神社の社家に生まれた北大路魯山人(1883～1959)。早くから書の才能を発揮し、書家として頭角を現しました。また、「食」へのこだわりが強く、料理にはそれにふさわしい器が必要との思いから、自ら陶芸を手がけるようになりま

有数の魯山人コレクションから、陶芸作品を中心に、書画、篆刻など95点をご紹介します。中にはアメリカから里帰りした名品の数々「カワシマ・コレクション」も含まれています。また、魯山人の旧居である「春風萬里荘」に併設された自身設計の茶室「夢境庵」を部分再現展示し、生活芸術家としての魯山人の姿を体感していただきます。



北大路魯山人《九谷風鉢》
笠間日動美術館蔵

函館美術館

北のさきがけ 道南四都物語

港町江差・城下町松前・開港地函館・開拓地伊達

4月28日(土)～6月13日(水)

今年、北海道は命名から150年を迎えます。道南の江差・松前・函館は、昨年、それぞれ、北海道における日本遺産第1号に認定されました。この機会に、北前船交易で栄えた港町・江差、最北の城下町・松前、幕末の開港地・函館、そして明治の開拓地・伊達の四都市と連携し、これらの都市に所蔵されているすぐれた文化財を展示し、江戸から明治にかけて、道南地域が北海道の文化形成のさきがけとして果たした比類ない役割を、ご覧いただきます。

見所は《江差町姥神大神宮祭礼山車松寶丸》の公開です(全期間)。また、《洛中洛外図屏風巨理伊達本》、小玉貞良《松前屏風》、《江差屏風》という近世の名作屏風3点を、揃ってご覧いただけます(5月13日まで)。この機会に、道南の至宝をぜひご覧ください。



太秦屋徳八郎(棟梁)
《江差町姥神大神宮祭礼山車松寶丸》1845(弘化2)年
北海道指定有形民俗文化財 松寶丸保存会蔵

帯広美術館

ナショナル ジオグラフィック 写真展

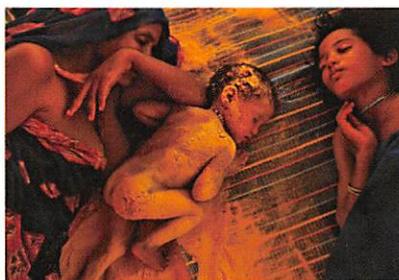
地球の真実

4月7日(土)～6月17日(日)

「ナショナル ジオグラフィック協会」は、1888年に「地理知識の普及と振興」を目的して設立され、米国ワシントンD.C.に本部を構える世界有数の非営利科学教育団体である。一世紀以上にわたり、自然・動物・文化・歴史・科学などさまざまな「まだ見ぬ地球の姿」を、月刊誌『ナショナル ジオグラフィック』を通じて世界に伝えてきた。多くの著名な探検家や科学者、研究者たちの活動を支援して得られた記録の数々は、徹底した取材と世界有数の写真家たちによる美しく迫力あふれる作品によって、驚嘆と

感動を与え続けている。

本展覧会では、1,100万点におよぶ膨大な写真コレクションの中から、大自然の驚異や野生動物の未知なる姿、異国の多様な暮らしや文化、古代遺跡の発見など、観る者の心に深く刻み込まれる写真の数々を紹介する。



ジョアンナ・B・ピネオ《永遠の一瞬》1997年
National Geographic Creative

釧路芸術館

風に導かれ 僕は旅をする

八戸耀生写真展

4月14日(土)～6月13日(水)

世界各地の風景や人々の姿を独特のスタイルで空撮した作品で知られる札幌在住の写真家、八戸耀生(1960年生)。その制作の原点は、18歳で自作の熱気球に乗り込み、大空で目にした光景への強い感動にありし

た。やがて熱気球を自在に操り、まるで鳥になったかのような視点を手に入れた八戸は、上空からの俯瞰にとどまらず、高度10mという超低空を飛行し、世界各地の人々の生活を撮影するようになります。声をかければ届

きそうな距離感。そこから上空と地上という関係でありながら、撮る者と撮られる者という一方的な関係ではない、独自の双方向的なコミュニケーションが生まれたのです。

本展ではこうした空撮写真に加え、精緻な撮影・編集技術を駆使した昆虫写真や、北海道の生き物たちを題材にした作品を出品します。

北海道発の創造的な写真表現をお楽しみください。



八戸耀生《パタヤ、タイ》2008年

札幌芸術の森美術館

ブリュッセル展

画家一族 150年の系譜

7月28日(土)～9月24日(月・休)

16世紀にフランソワ・ブーサックで活動したピーテル・ブリュッセル1世は、雄大な風景や農民の日常生活を生き生きと、緻密に描いた絵画で人気を博しました。それは、これまでの西洋絵画にはあまりなかった斬新な表現といえるものでした。こうした表現は、彼の2人の息子へ、更にその子孫たちへと受け継がれ、対象への鋭い観察眼を特徴とする一族の絵画の伝統が築き上げられました。神話、宗教と道徳、自然の風景、静物、農民の踊り…。本展では、幅広い主題を取り扱ったブリュッセル一族の絵画を、ほとんどが日本初公開となるプライベートコレクションか

ら厳選し、展示します。

また、ブリュッセル一族が活躍した150年という期間は、奇しくも明治2(1869)年に始まった北海道の開拓から現在までとほぼ同じ長さです。その点で、一族がいかに長い間活躍したかを感じ取ってもらえることでしょう。



ピーテル・ブリュッセル二世《野外での婚礼の踊り》1610年頃、個人蔵

本郷新記念札幌彫刻美術館

第2回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念

加藤宏子展

4月28日(土)～6月17日(日)

札幌に生まれ、戦後日本で活躍した彫刻家・本郷新(1905～1980)。若手作家の育成の願いを語っていた本郷の遺志を受け、優れた作品に「本郷新記念札幌彫刻賞」を贈っています。第2回本郷新記念札幌彫刻賞は、札幌在住の美術家加藤宏子が受賞しました。

和紙の原料である楮を素材に、生命感あふれる作品を生み出す加藤宏子。もともと堅牢な石を素材に作品を制作していました

が、試行錯誤を重ね独自の手法を生み出し、軽やかで繊細な紙の彫刻へとたどり着きました。あらゆる生物、そしてそれらを生み出した大地、宇宙をイメージし、自由度の高い楮により、見えざるものをダイレクトにかたちにしていきます。

本展は、受賞作『improvisation ～うけとめるかたち』の同シリーズ作品や、明かりを用いた表現など、彫刻の新たな可能性を感じさせる近作を中心に構成します。



加藤宏子《improvisation～うけとめるかたち》2018年(札幌市大通地下交流拠点地下広場)

MUSEUM CALENDAR

2018.4~2018.10

美術館のおもな展覧会ご案内

 は特別展示室 は常設展示室

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	4/1(日)~12(木) 第85回記念 独立展 北海道展	4/21(土)~6/24(日) プリチストン美術館展 石橋財団コレクションの精華		7/7(土)~9/2(日) 東京富士美術館開館35周年秘蔵選 日本の美・百花繚乱		9/15(土)~11/11(日) 京都国立近代美術館名品展 極と巧 京のかかやき	
	~4/12(木) (1階)ワンダー・ミュージアム 夜と出会う。夜を見る (2階)第3期名品選 キスリング 《オランダの娘》他	4/21(土)~6/24(日) (1階)近美コレクション 名品選 (2階)河村泳静所蔵 (伊達市教育委員会寄託) フランク・シャーマンコレクション —あるアメリカ人が見た戦後日本美術		7/7(土)~11/11(日) (1階) 北の美術館群像 (2階) みんなのアート 1, 2, 3			
TEL 011-644-6883 道近美 検索							
美三岸好太郎館	開館50周年記念/ リニューアル記念 4/5(木)~4/11(木) mima,明日への アーティストたちとともに 夢魔とボエジイ	4/21(土)~6/24(日) プリチストン美術館展		[アートギャラリー北海道]7/7(土)~9/2(日) 河村泳静所蔵 (伊達市教育委員会寄託) フランク・シャーマンコレクション選 mima - no - me #みまのめ 三岸好太郎セレクション		9/15(土)~11/25(日) 特別展/beyond2020プログラム 三岸好太郎を追いかけて [アートギャラリー北海道] mima - no - me #みまのめ	
	TEL 011-644-8901 mima 三岸美術館 検索						
旭川美術館		4/26(木)~7/1(日) 魯山人の宇宙 魂を惹る美が欲しい		7/12(木)~9/2(日) ユニマツコレクション フランス近代絵画と珠玉のラリック展		9/13(木)~11/7(水) 描かれた女たち 女性像にみるフォルム/現実/夢	
	4/26(木)~11/7(水) 姿/Figure—かたちの思惑(予定)						
TEL 0166-25-2577 旭川美術館 検索							
函館美術館		4/28(土)~6/13(水) 北海道150周年記念事業 アートギャラリー北海道 北のささかけ 道南四都物語		6/21(木)~24(日) 夕陽会 100周年記念 美術・書道展	6/30(土)~ 7/6(金) 第59回 北海道書道展 函館展	7/14(土)~8/26(日) 奇才・タリ版画展 炸裂するシュルレアリスムの世界	
	4/7(土)~8/26(日) ふしぎの国のいきものたち ちよつとこわくて、ただに気になる。 金子鷗亭 ふるさと・北をうたう						
TEL 0138-56-6311 函館美術館 検索							
帯広美術館	4/7(土)~6/17(日) ナショナル ジオグラフィック写真展 地球の真実		6/30(土)~9/5(水) 魔法の美術館		9/15(土)~12/2(日) 神田日勝と道東の画家たち &岡沼淳一・木彫の世界		
	4/7(土)~6/17(日) 奇想天外—プリントアートの世界		6/30(土)~12/2(日) 絵具の国—抽象表現の試み—				
TEL 0155-22-6963 帯広美術館 検索							
釧路芸術館	4/14(土)~6/13(水) 風に導かれ 僕は旅をする 八戸耀生写真展		6/22(金)~8/26(日) アートギャラリー北海道 イヌイットの壁かけ展		開館20周年記念 9/7(金)~11/7(水) 倉本 聡 展		
	4/21(土)~ 5/13(日) 我が家の名品展	5/19(土)~ 6/10(日) 我が家の名品展	9/7(金)~10/8(月・祝) 我が町のお宝展 別海町から				
TEL 0154-23-2381 釧路芸術館 検索							
美札幌芸術の館森	4/1(日)~6/10(日) リサ・ラーソン展 ~スウェーデンのすてきな芸術一家~		6/23(土)~ 7/16(月・祝) 北海道陶芸会 50周年記念展		7/28(土)~9/24(月・休) ブリュージュ展 画家一族 150年の系譜		10/6(土)~ 11/24(土) 札幌美術館 五十嵐威暢の世界
	TEL 011-591-0090 芸術の森美術館 検索						
札幌彫刻新記念美術館	4/28(土)~6/17(日) 第2回本郷新記念札幌彫刻賞 受賞記念 加藤宏子展		6/26(火)~7/16(月・祝) 子ども育成事業 わくわく★アートスクール 2018		7/27(金)~10/25(木) 市民交流 プラザ開館記念連携事業 オペラ衣裳展		
	~4/15(日) コレクション展 ふれる彫刻 手でみるアート		(記念館にて通年)本郷新、その生涯と作品				
TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術館 検索							

○開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで) ※芸術の森9:45~17:00 (6月から8月は17:30まで)

○休館日 ●毎週月曜日 (月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館)

●年末年始 (12/29~1/3) ●展示替え期間 (展覧会と展覧会の間)

※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について 貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。

アートクラブ2018 『デコっちゃお!!自分色の時計』

協力会ボランティアによるワークショップが2月17日に近美2階ロビーで開催されました。開始早々、作業テーブルが満席になり、さらに席を追加するほどの盛況ぶりでした。

時計の文字盤や枠にお好みのテープを巻いたり、シールやビーズを貼って自分色の時計の出来上がり。完成作品と共に記念撮影をしたり、会場は楽しい雰囲気に包まれました。



美術講座プレミアム

多彩なアートの世界を学ぶ

講師は美術史の研究者や、活躍中のアーティスト。今年度の講座は、アートの世界をさまざまな角度から探る、多彩な内容で行われた。受講者は150名。期間は9月7日から10月5日まで全5回。講師と講座の内容は次の通り(敬称略)

- 第1回 もう一つのエコール・ド・パリ
—モンパルナスの食堂をめぐる芸術家たち
小川原脩記念美術館館長 柴 勤
- 第2回 「傾城反魂香」の日本絵画史
北海道大学文学研究科准教授 鈴木幸人
- 第3回 芸術祭ってなんだ?
モエレ沼公園学芸員 宮井和美
- 第4回 絵本が伝えるアートの魅力
イラストレーター なかい せい
- 第5回 「土に訊く」 Re-birth 風化から再生へ
陶芸家 下沢敏也

会員拡充に向け総力で



ゴッホ展開催中の9月の土日、理事、事務局員、ボランティア有志が総出でピラ配り、協力会についてPRし、入会を呼びかけた。

第59回 学生美術全道展(17年10月7日(土)~10日(火))
第10回 道展U21(18年2月2日(金)~4日(日))

いずれも札幌市民ギャラリー

昨年10月に開催された学生美術全道展の最高賞である全道美術協会賞・北海道美術館協力会賞には、絵画部門から伊田光里(ひかり)さん(北海高3年)の油彩作品「熱」が選ばれた。しっかりとしたデッサンと画面構成、その迫力ある作品からは若者の力強いエネルギーが伝わってくる。

今年2月に開催された15~21歳を対象とした公募展道展U21は10回目を迎えた。774点の出品中、北海道美術館協力会賞に選ばれたのは、金子涼音(かねこりん)さんの立体作品「夕風」。木材工芸を基調とし、貝殻を要所に埋め込んだ漆(うるし)仕上げの作品は上品で和の世界を映す。



伊田光里さんと作品《熱》



金子涼音さんの作品《夕風》

彫刻清掃(9月28日)



清々しくよみがえった安田侃作《意心帰》。知事公館前庭 恒例の秋の彫刻清掃。ボランティア等15名参加

近美から感謝状(8月25日)



近美開館40周年記念式典で、開館当初からのボランティアによる支援に対して、協力会に感謝状が贈られた。

近美 Museum Shop

美術館にお越しの際はどうぞお立ちより下さい

作家 塩谷直美



スプーンハシオキ 各2000円



マフラーさん 各5000円



近美学芸員が語る名画のヒミツ 1296円

作家 関川敦子



豆本 サイズ約6cm×5cm 1000円~1500円



リトグラフミニ額 各2000円



ハースターカード 各250円

編集だより

この2月に40周年記念特別号を皆さまのお手元にお届けする事ができました。ご協力ありがとうございました。ここにまた41年目のアルテピア72号をお届け致します。編集部一同、また新たな気持ちで北海道の美術館情報を発信してゆきたいと思っておりますので、皆さまのさらなるご協力を宜しくお願い致します。(K)